

仁保のかわゲラ (日野川新聞) 夏号

発行 東近江地域振興局建設管理部

発行日 平成20年7月28日 No.19



平成20年度 滋賀県水防訓練が開催されました！

5月18日(日)朝9時より、平成20年度 滋賀県水防訓練が近江八幡市野村町の日野川の河川敷で開催されました。天気は晴れ。爽やかな青空の下、訓練会場には緊張した空気が流れていました。

「水防」とは、水害を防止するため、水害を軽減するために行うもので、平常時や洪水時に川や堤防を見回ったり、降雨や河川水位などの情報を迅速かつ確実に伝達したり、洪水によって堤防が決壊しないよう水防工法を行ったりする活動です。

今回は、水防に携わる人たちの水防意識の向上と技術の研鑽^{けんさん}を目的とし、情報伝達や水防工法を中心に訓練が行われました。

訓練は大洪水に見舞われた日野川を想定

訓練は、「日野川はん濫注意情報」の発令から始まりました。日野川の水位に関する情報は「滋賀県河港課(水防本部)」「東近江地域振興局」「関係市町」の順に伝達されます。この日は県庁や市役所などに担当者が待機し、FAXによる情報伝達と電話による着信確認の訓練を行いました。

また、訓練のメイン会場である日野川では、日野川の堤防が損傷を受け、決壊の恐れがあるため、近江八幡市が管内市町に応援を要請し、適切な水防工法を実施する訓練が行われました。

まず到着したのは日野町水防団。堤防が水の流れによって削られているため、これ以上洗掘されないようシートによって堤防を防護する「シート張り工法」と、堤防付近の水の流れを弱くして洗掘を防止する「木流し工法」が実施されました。

続いて、東近江市消防団と近江八幡市消防団がそれぞれ「月の輪工」、「釜段工」を実施しました。漏水する水の勢いが大きいと、堤防の中の土砂が流され、堤防が崩れやすくなってしまいます。このため、漏水箇所を囲むように土のうを積みあげ水を溜めます。溜めた水の水位と河川の水位との差を小さくすることにより漏水している水の勢いを弱めます。

安土町消防団と竜王町消防団はそれぞれ「積み土のう」、「改良積み土のう」を実施しました。また建設業協会湖東支部は、水を積んだタンク車を運転し、「水のう工」を実施しました。災害時、大きな重機を持つ建設業者さんは強い味方になります。

訓練を終えて・・・

訓練の閉会式では、ミャンマーのサイクロン被害や四川大地震の話がありました。どちらも多くの犠牲者が出ています。滋賀県でも未曾有の雨や大地震の発生がないとは言えません。

被害を最小限に食い止める手段として、水防工法は大きな役割を担っています。今回、平成2年の洪水を想定し訓練を行うことにより、意識の薄れていた部分が見えてきました。訓練での反省点を今後の水防に活かしていきたいと思います。



堤防をパトロールし損傷を発見！決壊の危険があるため水防本部に報告しています。



応援に駆けつけた消防団は、総指揮官の前に整列。指示を受け、作業に向かいます。



日野町消防団は、木流し工法(左)とシート張り工法(右)を実施。枝葉の多い木やシートによって、堤防が削られるのを防止します。



東近江市消防団が釜段工(左)を、近江八幡市消防団は月の輪工(右)を実施。どちらも土のうを積み重ねて漏水する水を溜めます。



竜王町消防団は改良積み土のう工を実施しました。ブルーシートを用いることにより、遮水性がアップします。



安土町消防団は積み土のう工(左)を、建設業協会湖東支部では水のう工(右)を実施しました。どちらも越水防止対策です。



会場では、過去に日野川で発生した水害の写真や、洪水のときに役立つ情報などを展示しました。伊勢湾台風の際には、今回の訓練会場より少し上流で堤防が決壊しています。当時の航空写真は、その被害の大きさを物語っていました。

河川の水位を見て、早めに避難の準備を！

間もなく台風シーズンがやってきます。みなさん水害への備えは万全でしょうか。水害から身を守るためには、川が危険な状態にある時、その情報を素早く入手する必要があります。

洪水時の水位情報として、「避難判断水位」が昨年度新たに設定されました。避難判断水位は、洪水により相当な被害を生ずるおそれがある河川を対象に設定されます。日野川においても桐原橋と安吉橋で次のように定められました。

桐原橋・・・3.80m（近江八幡市）

安吉橋・・・3.75m（竜王町）

この水位は市町が避難勧告を出す目安となりますが、避難勧告が出るまで待っているのではなく、積極的に情報を収集し、河川の水位が避難判断水位に達したら避難準備に取りかかるよう心がけることが大切です。水位に関する情報は、滋賀県防災ホームページで入手することができます。携帯からも簡単にアクセスできるので、是非ご活用下さい。

HP アドレス：<http://www.shiga-bousai.jp/index.htm>

携帯からはこちら：

<http://www.shiga-bousai.jp/mobile/kasen.html>

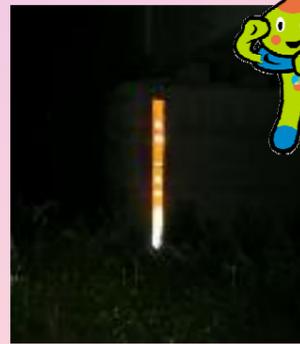


目で確かめよう、日野川の水位

昨年度、日野川の安吉橋、桐原橋に新しい量水標を設置しました。この量水標は洪水の危険度を色で知らせてくれます。また、光を反射させるため、夜間でも雨天でも確認できます。



安吉橋の量水標です。写真の下から順に、「注意」、「警戒」、「危険」と書かれています。また、黄色と赤の境目が避難判断水位の3.75mです。



夜間に撮影した量水標です。夜間でも懐中電灯で照らすと、光を反射するので水位を確認できます。洪水時は河川敷におりず、安全なところから確認してください。

日野川を彩る

～万葉集と蒲生野～



竜王町の雪野山のふもとに史跡広場「妹背の里」があります。「妹」は妻、「背」は夫を意味する言葉で、夫婦と訳されることもあります。仲むつまじい男女という意味もあります。

蒲生郡の肥沃な平野は古くから「蒲生野」と呼ばれていました。万葉の時代、この蒲生野を舞台とした「妹背」の物語や歌が数多く残っています。中でも有名なのは、額田王と大海人皇子との相聞歌です。

あかねさす 紫野行き 標野行き
野守は見ずや 君が袖振る（額田王）
紫の にほへる妹を 憎く有らば
人妻ゆゑに 我恋ひめやも（大海人皇子）

貴方が人妻の私にそんなに袖を振って、野の番人は見咎めないでしょうか。紫草のように美しい貴女が憎かったら、人妻なのにどうして恋などしようか。

額田王と大海人皇子はかつて夫婦でした。しかし、皇子の兄である天智天皇に引き裂かれてしまった・・・蒲生野で暮る思いを交わした歌です。

万葉集の約4,500首の歌のうち、近江を詠んだ歌は108首もあります。今も昔も近江、そして琵琶湖はとても魅力的な場所である証しですね。

カワセミのさえずり

～日野川 with カブトムシ～

先日、かわゲラファンの方から、ステキな写真を頂きました。どうやってそこにたどり着いたのか・・・川の中のコンクリートブロックにカブトムシがくっついていました。激流が目前に広がり背中が焦っているように見えますね(^_^)

カブトムシにはなかなか遭遇できませんが、日野川を歩いていると、キレイな草花を目にしたたり、鳥の鳴き声が聞こえてきたり、生き物の息吹を感じることができます。夏休み本番・・・遠出も楽しいですが、日野川で身近な自然に触れてみてはいかがでしょうか。



東近江地域振興局 建設管理部 河川砂防課 河川担当

〒527-8511 滋賀県東近江市八日市緑町7-23

0748-22-7746（直通） Fax 0748-23-4163 E-mail:ha33400@pref.shiga.lg.jp